

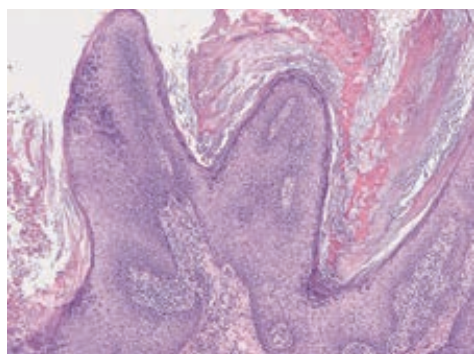


図 23.15 尋常性疣贅の病理組織像



図 23.16 扁平疣贅 (verruca plana)
下の写真では Köbner 現象を認める (矢印)。

ザーによる焼灼も行われる。ヨクイニン(ハトムギ種子抽出物)内服, 活性型ビタミン D₃ 外用, モノクロロ酢酸外用, グルタルアルデヒド外用, プレオマイシン局所注射なども行われる。経過中に炎症反応を生じて, 自然治癒することがある。

2. 扁平疣贅 verruca plana, plane wart, flat wart

同義語：青年性扁平疣贅 (verruca plana juvenilis)

症状・病因

ウイルス性疣贅の一種で, HPV-3, 10 が主体である。青年期女子の顔面(額, 頬)や手背に好発する。わずかに隆起した直径数 mm ~ 1 cm 大の扁平丘疹が多発し, ときに融合したり自家播種のため線状に配列する(図 23.16)。色調は正常皮膚色から淡紅色であり, 自覚症状はほとんどない。自然消退する際は掻痒や発赤などの炎症症状を生じ, 落屑を経て治癒する。しかし, 数年にわたり難治となるものもある。

治療

液体窒素による凍結療法, ヨクイニン内服などを行う。

3. 尖圭コンジローマ せんけい condyloma acuminatum ★

Essence

- ヒト乳頭腫ウイルス (HPV) 6 型, 11 型などによって, 外陰部に乳頭状の丘疹を形成。性感染症 (STI) の一種である。
- 潜伏期は 2 ~ 3 か月。
- 治療は液体窒素による凍結療法やイミキモド外用, 外科的切除など。

疫学・病因・症状

HPV-6, 11 などによる。大部分は性活動の盛んな年代にみられ, 主に性行為によって感染する (sexually transmitted infection; STI)。潜伏期は 2 ~ 3 か月である。外陰部や肛門に, 乳頭や鶏冠, カリフラワー様の疣状小丘疹が多発する(図 23.17)。角化傾向は少なく, 表面は浸潤してときに悪臭を放つ。巨大に増殖する場合があります。角化と潰瘍化をきたすことがある。陰茎に生じた巨大尖圭コンジローマを Buschke-Löwenstein 腫瘍といい, 現在は疣状癌 (22 章 p.448 MEMO 参照) の一種とみなされている。